

# 春の映画祭

『バッテリー』  
『硫黄島からの手紙』  
『ライオンを探せ!』

とき 3月25日(日)  
ところ 総合文化会館

スクリーンフェスティバルインたかはし実行委員会では、市内でロケをした最新映画『バッテリー』、ウォルト・ディズニー作品の『ライオンを探せ!』、話題作『硫黄島からの手紙』を上映します。



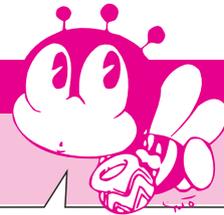
●上映開始時間および入場券(当日券のみ)

ライオンを探せ! 午前10時から		硫黄島からの手紙 午後1時から		バッテリー 午後5時30分から	
大人	1,000円	大人(☆)	1,200円	大人(☆)	1,800円
大学生・高校生	1,000円	大学生・高校生	1,000円	大学生・高校生	1,500円
中学生～幼児(3歳以上)	800円	中学生・小学生	800円	中学生・小学生	1,000円
シニア(60歳以上)	800円	シニア(60歳以上)	1,000円	シニア(60歳以上)	1,000円

☆: 夫婦50割引…夫婦で来場し、どちらかが50歳以上の場合、夫婦で2,000円。

■問い合わせ 「スクリーンフェスティバルインたかはし実行委員会」事務局(高梁地域局住民福祉課内☎0282)

## マナビ通信 その③



### 読み聞かせ講座 に参加しませんか?

絵本の選び方や読み聞かせ方など、実演を交え、楽しく学べます。読み聞かせに興味のある人、ボランティアとして活動してみたい人など、お気軽にご参加ください。



- とき 3月7日(休)  
午後1時30分～午後3時
- ところ 文化交流館 ハイビジョンルーム
- 講師 こどもと本～おかやま～事務局 伊丹 弥生さん
- 参加費 無料



○申込期限・方法 2月26日(月)までに  
電話かFAXで

※託児(1歳未満は除く)もありますので、希望者は申し込みの際にご連絡ください。

■申し込み・問い合わせ 社会教育課生涯学習係  
(TEL)☎9083・FAX☎9105

開催期間: 平成19年11月2日(金)～6日(火)

生涯学習では、市や大学、NPO法人、企業等、さまざまな団体・個人が主催する研修活動に参加することも、学習の方法の一つだね。

市内でも、年間を通して、健康や子育て、人権、まちづくりなど、さまざまな分野の講座や研修会が開催されているよ。

最近では自分で実際に体験しながら学ぶことのできるワークショップや体験学習などの研修活動も増えているんだ。

研修活動は、自分の知識を深めたり、情報を収集したりするよい機会。いろいろな活動にぜひ参加してみてね。

## 留岡幸助 ④

一路白頭いちろはくとうに到るいた

明治24（1891）年4月、空地集治監そらちしゅうじかんの教誨師きょうわいしとして夏子と長男敏を連れて赴任した。ここは全国から政治犯や凶悪な犯罪者を収容、強制労働させていた。教誨師は受刑者に人間としての道を示し、前非を悔い、よい心をもって世の中に出て行くよう指導する。彼は個人と話す密房教誨を熱心に実施し、家庭事情や

動機などを聴けるまでに彼らと心を通わせ、信頼を得ている。その中で重罪人の7、8割は少年時代に悪の道に染まっていたことを知る。若い時期に教育し、改善・教化することが必要であると痛感した。

幸助は明治24年初秋、北海道各地の監獄の様子を知るため、47日間の一周旅行を行った。各地の受刑者の鉦山労働や道路、鉄道の建設の厳しい労働で多くの犠牲者が出るなど受刑者への懲罰主義の実情を見て、欧米の監獄制度の実情を知りたい思いがますます強くなった。

監獄学の研究が急務と悟った幸助は明



北海道家庭学校校庭にある留岡幸助の胸像。台座に「一路白頭」と刻まれている。



留岡幸助の北海道一周

犯者を入れ、工場、農耕など労働に従事させながら精神の改善を図っている。幸助は監長に自分の目的を述べ協力を願った。無一文に近いので工場で囚人と共に働き、生活と研究の機会を与えてもらった。暇を作って図書館で勉強する中で、岡山県出身の後の社会主義者・片山潜と知り合い、10日ほど共に暮らして

いる。

その後、学資の援助を受け、通信員の資格で手当てを受けながら見学学習を続けた。明治28年5月、念願のニューヨーク州エルマイラ感化監獄の典獄ブロックウエーを訪ねた。彼はずっと監獄に勤め、

不定刑期主義のエルマイラ感化監獄を作った人である。獄内には農場、工場など三十余种の実業教育がある。幸助はつぶさに施設を見学し、創設者の人格、思想に感銘を受け、科学的な監獄改良の筋道を学んだ。ブロックウエーは「私

はただ一つのことをやっているだけ、しかし、それを成し遂げるにはたゆまぬ努力と長い時間が必要。我この一事に励むが座右銘です」と言う。これを聞いて幸助は、感化教育を一生の仕事にする決意を固め、「一路白頭に到る」を座右銘とした。

明治29年、2年間のアメリカ留学を終えて帰国すると感化院創設に全力を傾注していく。内務次官で大感化院の構想を持つ三好退蔵と設置に動き始めたが、幸助がキリスト教を前面に出すことを主張したのに三好は反対し、暗礁に乗り上げた。

翌年、幸助は東京の霊南坂教会の牧師になった。彼の話を聞いた信徒の中に強力な支援者が出て、感化学校創設の話が進展した。巢鴨に三千六百坪の土地を見つけ、恩師ゴルドンの千円の寄付と借入金二千二百円、計三千二百円で購入する運びとなり、幸助が「家庭学校」と名付けた感化学校が誕生した。

（文・児玉 享さん）